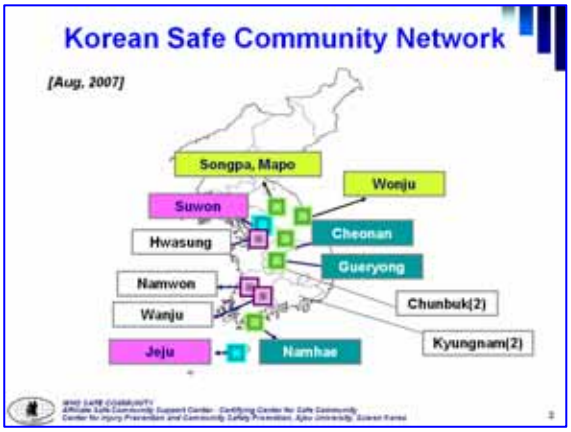
Ⅱ-2　Key issues and challenges on Safe Community in Korea

Nom-Soo Park　韓国アジョ大学医学部外傷予防及び地域安全向上センター准教授

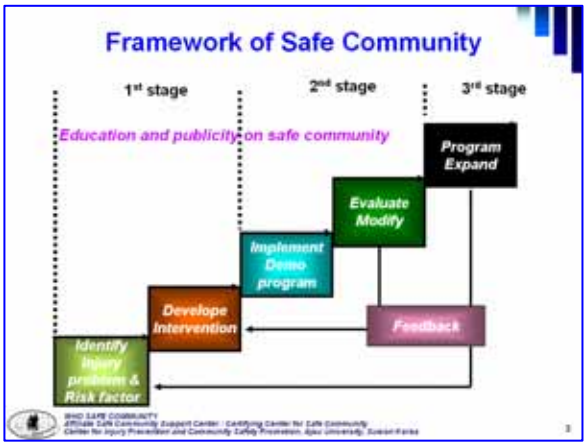
私は、韓国のスウォン市にあります亜州医科大学にある認証センターというところに所属しています。まず、みなさまのこれまでのセーフコミュニティへの取組に対して敬意を表したいと思います。みなさまのこれまでの取組というのが、亀岡がより安全な町になるためのしっかりとした基盤づくりにつながってきていると思います。今日はここにお呼びいただいてうれしく思っています。

今日、私がみなさまにお話ししたいと思っておりますのは、現在韓国で行われておりますセーフコミュニティ活動における課題と、それへの挑戦についてお話ししたいと思います。



まず、韓国がどのようなセーフコミュニティの取組をしているかということをお話ししたいと思います。韓国が初めてセーフコミュニティへの取組を始めたのは、１９９９年になります。現在８つのコミュニティがセーフコミュニティの認証を受けるため､取組を進めています。そのうちの２つが認証を受けております。１つがスウォン市で２００２年、２００７年にヂェジュ島が受けております。最初に認証を受けたスウォン市は、来月の４日に再認証をされることが決まっています。

また、自分たちのコミュニティの中でセーフコミュニティのプログラムを進めようとしている地域が７つあります。



今みなさんにお見せしているのは、セーフコミュニティ支援センターが提供しているセーフコミュニティの取組の全体像になります。

第一段階は、何が地域の課題であるか、何が危険要因であるかということを明らかにすることから始まります。課題や危険要因を見つけだしたら、その次に、それをもとにどうやってその課題を解決するかを考えるというステップに入ります。

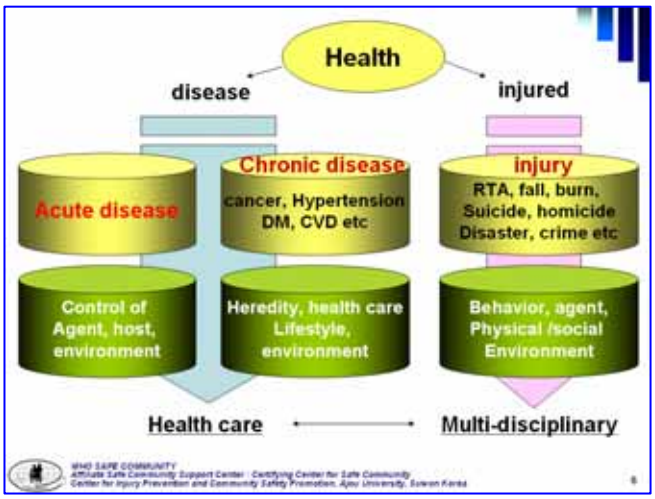
その次の段階に、実際に計画を実行に移し、それを評価し、プログラムを改善するというになります。このフィードバックをした後に、プログラムを増やしたり、ターゲットを増やしたり、拡張していくことになります。地域レベルのプログラムの場合は、コミュニティからの草の根的な動きが継続することで非常に大きな力を発揮します。ですので、私たちがセーフコミュニティの取組を始めるときに、まず最初に教育だとか、周知のための方法だとか、外傷予防だとか、安全とは何かとか、安全の向上だとかということに対する教育、あるいは周知・啓発が非常に大切になります。

次に、大きな課題についてご説明したいと思います。もっとも大切なのは、外傷というものをしっかりと理解をするということです。取組をする上で、外傷というものを十分に理解せずに、正しい取組を進めるのは難しいことです。みなさんは、外傷や安全と聞いて何を思い浮かべますか？

韓国は、西洋とは違う概念があります。みなさんの前にあるのは、WHO の安全や外傷に関する資料です。この、WHO の取組を進めるに当たって、交通事故というものに重きを置いています。

韓国では交通安全というのは警察の仕事だと考える傾向があります。決して、保健や健康分野人たちの仕事ではないと考える風潮があります。なぜそれなのに、健康政策を進めている WHO が交通安全というのを進めているのでしょうか。

セーフティープロモーションは、人は大切という考えの上に立つと、よりよい社会を作るための方法をいうことになります。そのためには、健康というものに対する考え方をちょっと変えてみる必要があります。何が、私たちの幸せで健康な生活に、影響を与えているか考えてもらいたいと思います。たくさんの病気やケガなどがあります。私たち誰もが、病気やケガをしないで幸せに生きたいと思っています。健康と安全というのは誰もが持つべき平等な権利です。多くの場合、病気というのは健康問題ととらえますが、なかなかケガ・事故というのはそのように考えない傾向があります。

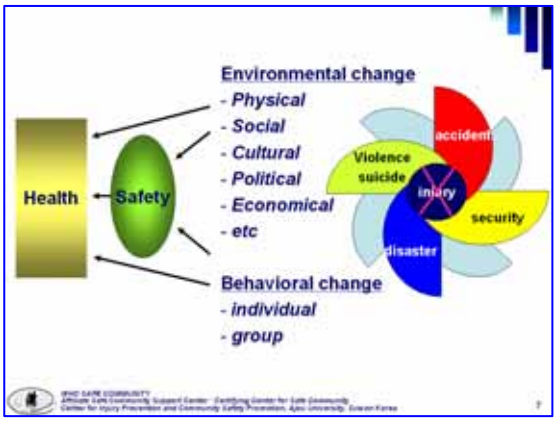


外傷というのは交通事故だけでなく、ケガとかいろいろな要因も関わってきます。ケガというのは、健康問題なのですね。それは個人だけの問題ではなく、社会に対して大きな負荷を与えています。例えばケガが元で障害を持ってしまうとか、社会に対する経費面でも非常に負荷がかかってきます。包括的にこの外傷を予防するためには、多面的な取組というものが必要になってきます。安全というのは、健康の増進、あるいは福祉の増進のためには必要条件です。セーフティープロモーションの取組というものは、人々がどのように安全というものを理解しているのか、そしてどういう方法を自分たちの地域でとるべきか、を理解するというところにあります。

２つ目の課題は、外傷の予防の可能性になります。外傷というのは予防ができる病気というふうに考えること

もできます。ある人は、このことを病気の放置と呼ぶこともあります。

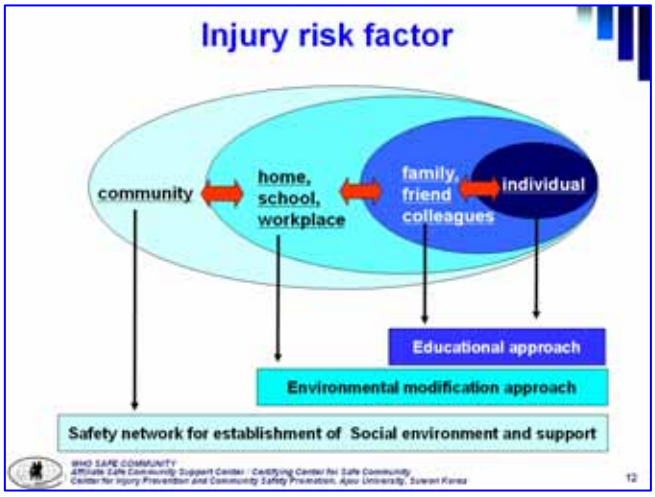
多くの人は、事故によるケガは避けることも、予測することも、予防することもできないと考えがちです。でも、外傷の予防は、病気の予防と非常に似ているということができます。もし、何によって外傷ができたかということを理解できれば、どうやってそれを予防できるかということにつながるわけです。最終的な安全というゴールに向かうために安全向上する、外傷を予防する、治療・リハビリをするということを、組み合わせてアプローチしなくてはいけないのです。



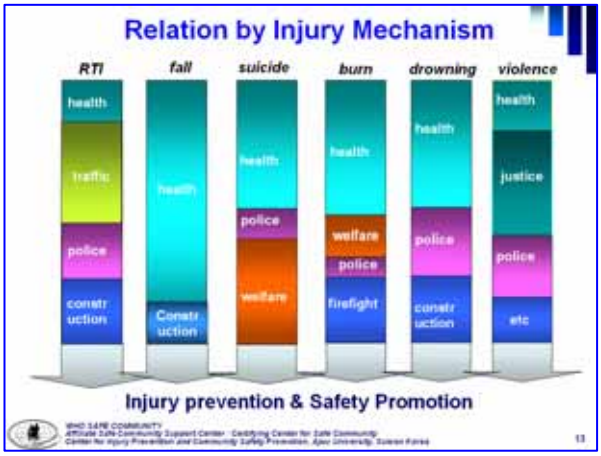
例えば､車と自転車が衝突した事故があったとします。もっとも理想的な方法は、車道と、自転車道を分けて設置するということです。でも、それは、デザインをし直したり、設計をし直したり、作り直したり、とても難しいことです。

このため、２つ目にできることは、教育とか、規制ですよね。事故で頭を打つのを避けるためにヘルメットを着用する、などが考えられます。最初に言いました、環境的な変化、道路の改装だとかヘルメットを着用する法規制だとかは､事故が起こる前にできることです。事故が起こった後にしなければならないことというのは、医療的ケアやリハビリであったりするわけです。この中でもっとも効果的な方法は何かと考えたときに、ケガをする前に事故が起こるのを防げば、一番効果的な方法なわけです。

３つ目は、安全の向上は非常に複雑で複合的なものだということです。いかに安全な町を作るかということには、個人の取組、グループの取組、コミュニティの取組、いろんなレベルでの取組が組み合わされる必要があります。行動の変容、環境の変容というのは、より継続的な安全という環境を作るのに必要となります。社会構造を変えるというのは、人々の生活と健康と、社会構造を理解する大きな助けになります。人々の環境と社会的要因の産物の結果と見た場合ですね、知識とそれによって得られるものを基盤とした解決法を見つけようといったことになります。



この取組をするとき、１つの分野だけで取り組んでもうまくいかない、いろんな分野の取組が協力して、初めて安全が確立されることになります。ですので、私たちは一緒に取り組むということが必要になります。でも、保健の分野以外では、ケガというのは健康問題だと考える傾向が、まだまだ低いようにと思います。先ほどもみなさんに見ていただいた６つの指標というのに沿って見てみますと、私たちはそれぞれ自分たちの分野だけに固執するのではなく、範囲を広げ、他の分野の人たちと交わっていって、一緒に取り組むということが大切になります。

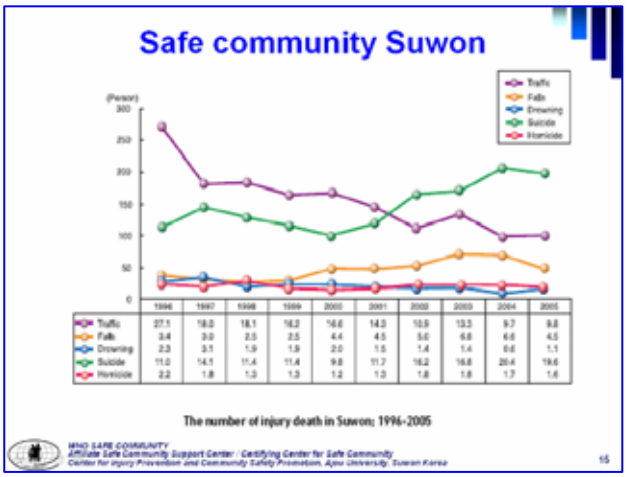


次に、スウォン市の取組を元に、コミュニティでどのように継続的なセーフコミュニティとしての発展をしてきたかを紹介したいと思います。

図を見てください。これを見てみると、死亡率というのがだんだん下がってきていると思います。

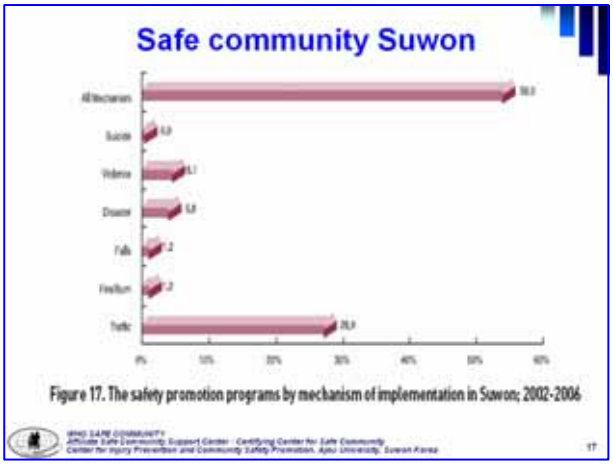
紫の折れ線グラフ、交通事故になりますが、これはだんだんと減ってきています。一方で、自殺の数が、非常にのびてきているのが、見ていただけると思います。

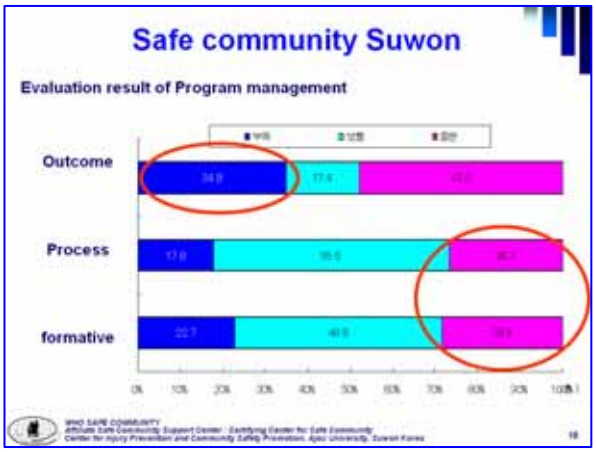
特に１４歳以下の交通事故の数というのが、非常に低く、ゼロになっています。その中でも４歳以下というのが、非常に低くなっています。

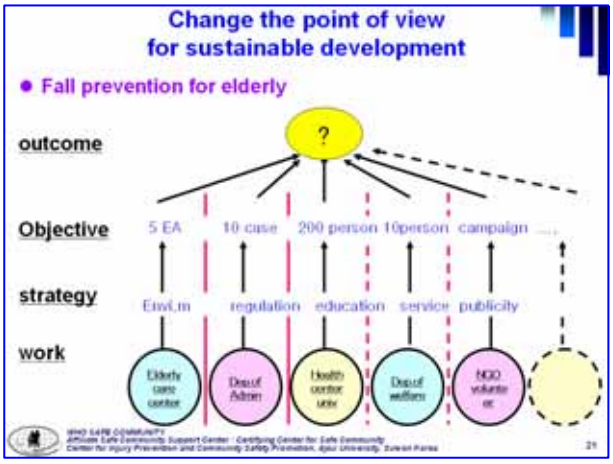


セーフコミュニティの評価の指標を見ていただくと、子どもや高齢者にとって、家庭内というのが、危険の要因になっていると思います。私たちの取組のフィードバックを見ていただきますと、教育によってこの取組が効果を生んでいるということが分かります。

この図を見ていただきますと、一番左が満足していない、真ん中がまあまあ、右が満足しているということになりますが、これを見ると、８年前、プログラムを始める前の満足度は非常に低いですけれども、取組が終わった後の結果を見ると高くなっている、ということが分かります。



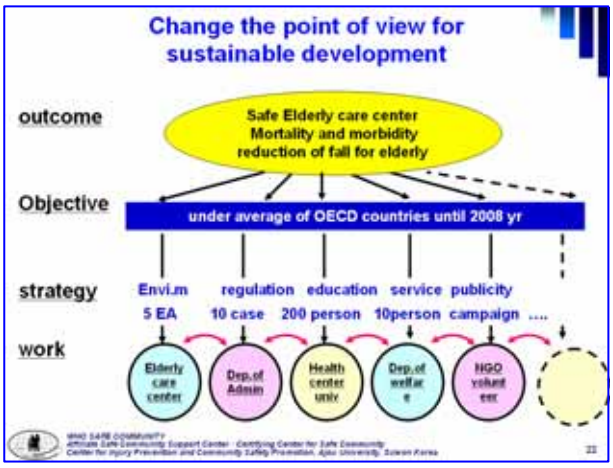




それで、私たちは、コミュニティの方に、次のような指導をしています。まず、このプログラムをどう見ていますか、何なのですか、ということを問いかけます。次に、目標は何ですか、と問いかけます。どの年齢層にこのプログラムを用いますか、と問いかけます。次に、どういうような環境を取組の対象にするか、ということを説明します。外傷予防と安全向上ためのプログラムを作るに当たって、どういうケガを対象にしますか、それを予防するためにどういう取組をしますか、どういう組織と協力して取り組むことができますか、そして最後に自分たちの取組をどうやって評価しますか、ということを問いかけます。

例えば、地域というのがより安全な場所となるためには、いろんな分野の方が、一緒になって取り組む必要があります。例えば、高齢者の方が安全に生活を送るためには、そういう人たちが一緒になって取り組む必要があるのか、ということを考えていただければ分かると思います。

例えば、それぞれの取組において、それぞれのやり方があって、それぞれの目的があって、高齢者の



安全という同じゴールを目指して取り組んでいます。

しかし、どうしても高齢者の転倒による死亡の率や受傷率を、良い方向へ向ける効果を得るのはとても難しいことです。みなさんは、最終的にはどのような効果を得たいと思っているのでしょうか。ここで必要なことは、プログラムを継続していくことです。

まずは、共同の目標を持って、そこに向かってビジョンを持って取り組むということが大切になります。それぞれの分野が、自分たちの専門性を最大限に生かしながら、連携して進めていくことが大切になります。

まず大切なのは、すぐに終わるようなプログラムではなく、長く続けられるような取組というのを、それぞれの専門分野が連携して、進めていくということが大切になります。

みなさんに１つお伺いします、セーフコミュニティの効果って何でしょう？もし、あなたの地域がセーフコミュニティの取組を始めたときに、あなたはまず何をしたいですか？もちろん、まず最初に思うのは、ケガが減る、それによる負担を減らすということです。私たち誰もが、安全と健康というのは等しく持つ権利があります。それは私たち個人個人が同様に、行政であったり、国であったり、地域であったりそれぞれがそれを担う責任があります。安全を向上させる取組というのは、地域の財産である私たちに対するもっとも効果的な投資であるといえるのではないでしょうか。

最後になりますが、みなさんにこのセーフコミュニティという概念を正しく理解していただいて、みなさんで、協力して取り組む、つまりコミュニティレベルで取り組んでいただくことが、地域がもっとも安全でかつ、みなさんが健康で過ごすことができる、亀岡市になる近道になると信じています。

ありがとうございました。

※逐次通訳：白石陽子((株)マチュールライフ研究所)